第6講 【中世編】イスラーム世界の形成と発展
PART3 イスラーム世界の分裂1

Chapter 1　イスラームの分裂とイラン人の台頭

目標　アッバース朝カリフの権威が低下した理由を考えよう。
ブワイフ朝はどのようにして実権を握ったのだろうか。

1　アッバース朝カリフの権威低下

①後ウマイヤ朝（756年～1031年）の成立

756年，イベリア半島に〔　　　　　　　　　　〕が成立。首都を〔　　　　　　　〕に定める

A　君主は**アミール**の称号を用い，当初はアッバース朝**カリフ**の権威を否定しなかった→のちにカリフを自称

B　イベリア半島にイスラーム教が広まり，学問が発達

C　芸術分野でも装飾文様として植物やアラビア文字を文様化した。**アラベスク**を多用したすぐれた作品がつくられた

②ファーティマ朝（909年～1171年）

A　10世紀に入り，北アフリカに**シーア派**の〔　　　　　　　　　　〕が成立

B　アッバース朝の正統性を否定し，君主は当初より〔　　　　　　〕を自称

※アッバース朝がムハンマドの叔父の子孫の系譜であるのに対して，ファーティマ朝はムハンマドの直系の子孫であることを強調した。

→後ウマイヤ朝のアブド＝アッラフマーン3世もこれに対抗してカリフを自称した（929年）。3人のカリフが並存する形となり，イスラーム政権の分裂が決定的となった

C　10世紀後半にはエジプトを征服し，首都〔　　　　　　〕を建設

D　カイロや**アレクサンドリア**が交通網の中心として繁栄し，カイロにはイスラーム教の最高学府として〔　　　　　　　　　　〕（世界文化遺産）が設立された

2　イラン人の台頭とブワイフ朝

①ブワイフ朝（932年～ 1062年）の台頭

西北イランにシーア派の**イラン系**〔　　　　　　　　　　〕がおこる

946年　**バグダード**に入城

君主はアッバース朝カリフの権威を認め，自らは〔　　　　　　　　　　〕の称号を得て，イラン・イラク地域を支配した

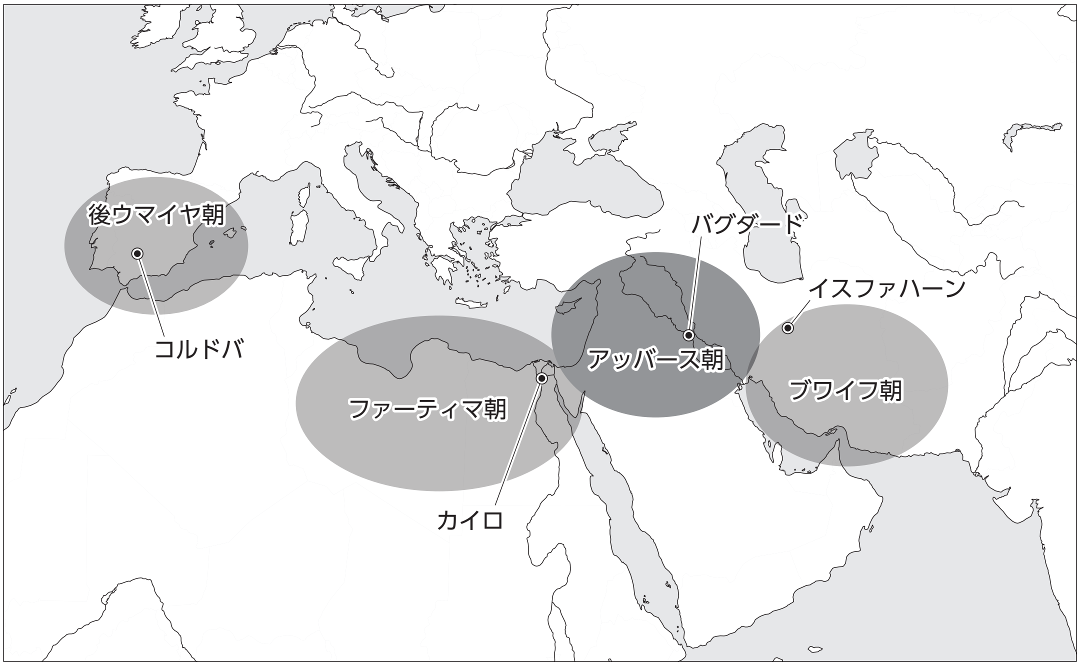
→アッバース朝の政治的実権はほとんど失われることになった

ブワイフ朝では，イラン人が官僚として登用された

②イクター制の施行

ブワイフ朝では,軍人に対してそれまでの俸給の代わりに一定の土地の徴税権（イクター）を与え，土地を管理させた。これを〔　　　　　　　　　　〕と呼ぶ

※イクター制は以降のイスラーム王朝で採用される。



イスラーム世界の多極化

まとめ

ファーティマ朝や後ウマイヤ朝がアッバース朝の正統性を否定し，カリフを自称したため。

ブワイフ朝はカリフから大アミールの称号を得て，政治の実権を握った。

Chapter２　トルコ系イスラーム王国のおこり

目標
中央アジアがトルコ化していったきっかけを考えよう。
セルジューク朝はどのようにしてイスラーム世界の政治的実権を握ったのだろうか。

1　トルコ人の西進

①ウイグルの西進

８世紀半ば　トルコ系騎馬遊牧民の〔　　　　　　　　　〕が**突厥**を滅ぼし，モンゴル高原を支配

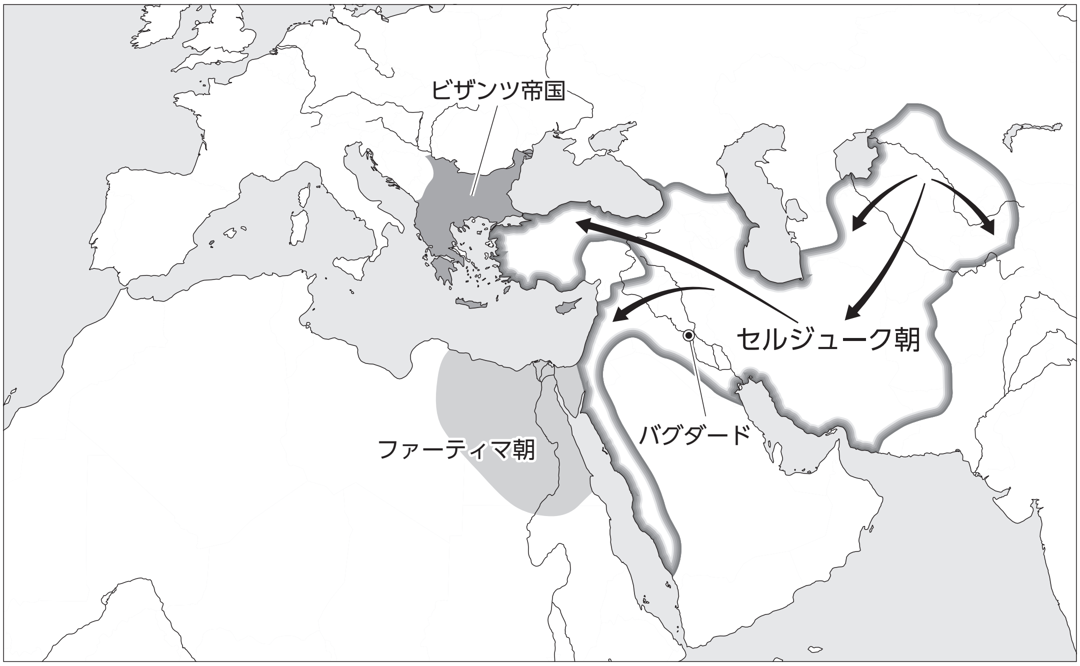
９世紀半ば　トルコ系の**キルギス**によりウイグルが滅亡し，のちにウイグル人の一部が西方へ移住。トルコ系騎馬遊牧集団の西方への移住が活発となる

10世紀末　イスラーム教を受容したトルコ系の〔　　　　　　　　　〕が**サーマーン朝**を倒して中央アジアに進出

→中央アジアにはトルコ語を話す人々が増加。トルコ化が進み，その地域は〔　　　　　　　　　〕（トルコ人の土地）と呼ばれるようになった

②マムルークとしての登用

９世紀　アッバース朝カリフらが**マムルーク**（トルコ系軍人奴隷）を登用



ウイグルの西進

2　セルジューク朝の成立

①セルジューク朝（1038年～1194年）の成立と発展

11世紀前半　トルコ系王朝である〔　　　　　　　　　　　〕が成立

1055年　創始者の〔　　　　　　　　　　　　〕がブワイフ朝を攻め，

バグダードに入城。アッバース朝カリフから〔　　　　　　〕（支配者）

の称号を得る

1071年　小アジアに侵入し，ビザンツ帝国軍を破る

→キリスト教国の**十字軍**遠征のきっかけとなった

②セルジューク朝の統治

A　イラン系官僚の登用

イラン系の人々が官僚に登用された。イラン系の宰相

ニザーム＝アルムルクが各地に〔　　　　　　　　　　　　〕という

マドラサ（学院）を建設し，スンナ派の学問を振興した

B　イクター制の継承

軍隊ではマムルークを重用し，彼らにイクターを与えた

3　セルジューク朝の衰退

①内部分裂による弱体化

イクター保有者の自立が進み，地方政権に分裂。セルジューク朝は衰退

②ルーム＝セルジューク朝（1077年～1308年）

小アジアに侵攻したセルジューク朝の一族が

ルーム＝セルジューク朝を建てる。13世紀には**モンゴル**の侵攻を受けて衰退

→小アジア各地に建てられた侯国のうち，北西部に**オスマン朝**がおこり，

のちの**オスマン帝国**に発展

まとめ

トルコ人がマムルーク（軍人奴隷）として西方で登用されたことで中央アジアのトルコ化が進んだ。

セルジューク朝のトゥグリル＝ベクがバグダードに入城し，カリフからスルタンの称号を得て政治権力を得た。

第 6 講　PART 3　確認問題

1 文芸が栄えた後ウマイヤ朝の首都はどこか。

① メッカ　② メディナ
③ アレクサンドリア　④ コルドバ

2 後ウマイヤ朝の君主が当初使用した称号はどれか。

① カリフ　② アミール
③ ウラマー　④ ディクタトル

3 10 世紀に北アフリカでおこったシーア派の王朝はどれか。

① ファーティマ朝　② ウマイヤ朝
③ アッバース朝　④ トゥールーン朝

4 ブワイフ朝がはじめた，軍人に土地の徴税権を与えて管理させる制度を何というか。

① 封建制　② アター
③ イクター制　④ カースト

5 トルコ系軍人奴隷のことを何というか。

① トルキスタン　② マムルーク
③ シュードラ　④ ズィンミー

6 11 世紀におこったトルコ系スンナ派王朝はどれか。

① サーマーン朝　② 突厥
③ ウイグル　④ セルジューク朝

7 トゥグリル = ベクがアッバース朝カリフから得た称号はどれか。

① ファラオ　② スルタン
③ 大アミール　④ アウグストゥス

8 小アジアに侵攻したセルジューク朝の一族が 11 世紀に建てた王朝はどれか。

① ルーム = セルジューク朝　② オスマン朝
③ ムラービト朝　④ ムワッヒド朝

第 6 講　PART 3　確認問題 解答

1 解答：④　後ウマイヤ朝の首都**コルドバ**を中心にイベリア半島でイスラーム文化が発展した。

2 解答：②　後ウマイヤ朝の君主は，当初**アミール**の称号を使用し，アッバース朝カリフの権威を否定しなかった。ウラマーはイスラーム知識人のことをいう。

3 解答：①　北アフリカにシーア派の**ファーティマ朝**がおこり，後ウマイヤ朝とあわせてアッバース朝の分裂が決定的となった。

4 解答：③　ブワイフ朝は軍人に俸給（アター）を支払う代わりに，土地の徴税権（イクター）を与えて土地を管理させる**イクター制**をはじめた。

5 解答：②　トルコ系軍人奴隷の**マムルーク**は，9 世紀初めからアッバース朝カリフらに登用された。

6 解答：④　11 世紀に建国されたトルコ系スンナ派王朝は**セルジューク朝**である。

7 解答：②　セルジューク朝の創始者であるトゥグリル＝ベクは 11 世紀半ばにバグダードに侵攻し，**スルタン**（支配者）の称号を認められた。大アミールはブワイフ朝君主の称号。

8 解答：①　セルジューク朝が内部分裂で弱体化し，小アジアに**ルーム＝セルジューク朝**が成立した。オスマン朝はルーム＝セルジューク朝衰退後に建国され，オスマン帝国に発展した。